

4 主要作物生育、作柄の概要

1) 農作物生育状況

(1) 普通作物

水稲(平年並 作況指数 県北部101 県中部101 県南部101) 農林水産統計より

[早植栽培] (経営技術課情報より)

- ・4月第4, 5半旬の低温寡照の影響で、苗の生育はばらつき気味で苗丈はやや短かった。病害は一部で馬鹿苗等が見られたが全体的に発生は少なかった。
- ・田植は地震の被害があった一部地域を除いて平年並に実施された。5月上旬の日照時間が少なく、活着・初期生育は劣った。
- ・梅雨入りが平年より12日早い5月27日頃になり、6月上旬までの気温が低く日照時間が少なかったため、生育は3日程度遅れた。曇天の影響でイネドロオイムシの発生が見られ、特に箱施用剤を使用していないほ場で発生が多かった。葉いもちの発生は少なかった。
- ・6月下旬以降、気温は非常に高く経過し生育が進んだ。梅雨明けが平年より12日早い7月9日となり、高温の影響で生育が早まると予想されたが、台風6号の通過後7月下旬が低温となったため、出穂期は平均で8月1日と2日早い程度だった。葉いもちの発生が見られたが、程度は軽かった。
- ・登熟日数は平年並、出穂期と同程度に成熟期は2日早まった。

[普通植栽培] (経営技術課情報より)

- ・苗の生育は草丈が長く、乾物重は重く、良好だった。
- ・田植後6月下旬～7月第1半旬が異常高温だったため、初期生育は抑制気味に経過し、草丈は低く、茎数は少なかった。
- ・7月中旬までの高温の影響で、8月第1半旬の草丈は低いながら茎数は平年並だった。
- ・出穂期は平均8月27日で、平年並～3日遅くなった。
- ・出穂期以降9月中旬まで気温は高く、日照時間は多かったが、9月下旬～10月上旬は低温で推移した。登熟日数は2日短くなり、成熟期は平年より1日早まった。

表 主要品種の生育概況(生育診断ほ平均) (経営技術課より)

品種	出穂期		成熟期		登熟日数		登熟歩合(%)		収量(kg/10a)	
	H23年	平年	H23年	平年	H23年	平年	H23年	平年	H23年	平年
コシヒカリ (早植)	8月1日	8月3日	9月13日	9月15日	43.4	43.6	81.9	80.1	575	559
あさひの夢 (普通植)	8月27日	8月26日	10月12日	10月13日	46	48	89.1	80.4	53.9	52.5

参考：品質の概況(平成23年11月15日現在) (全農とちぎ調べ)

- ・1等比率コシヒカリ90.3%、あさひの夢94.1%、なすひかり89.7%。
- ・2等以下各付け理由の上位は、胴割粒43.7%、カメムシ類27.0%、心白腹白8.7%。

麦類（平成23年産）

（経営技術課情報より）

収量(対前年比) 小麦：96 二条大麦：104 六条大麦：100 農林水産統計より

- ・10月下旬～11月上旬の降雨により播種作業が遅れたが、11月中旬の乾燥により出芽は概ね順調だった。
- ・播種遅れや12月の多雨、1月の低温・乾燥等が複合的に影響し、生育は遅れ気味だった。2月の気温がやや高く、降雨雪もあり乾燥が解消されたことから、生育は回復した。
- ・3月以降の寒さにより、出穂期は二条大麦で4日、六条大麦で4日、小麦で6日遅れた。3月下旬から4月上旬に最低気温-3以下の日が複数回あり、生育が劣る圃場で幼穂凍死や不稔の発生が見られた。赤かび病の発生が懸念されたが少なかった。
- ・4月～5月の気温が平年並で登熟期間が長かったため、子実の充実は順調だった。河内、芳賀、下都賀地域では、タマイズミや農林61号でコムギ縞萎縮病の発生が目立った。
- ・梅雨入りが平年より12日早い5月27日頃になり、5月下旬から降雨が多かった。収穫作業は前年に比べ2～3日遅れた。
- ・収穫期に大雨に遭遇した県南部の二条大麦は色沢が劣る傾向が見られた。

大豆

（経営技術課情報より）

- ・麦の収穫が遅れたため播種作業の出足は遅れたが、6月下旬の降雨が少なかったためその後作業は順調に進み、出芽も良好だった。
- ・7月23日の台風6号の影響で県南の一部地域で約2日間滞水し、枯死・欠株が見られたが、全体的には生育は順調だった。7月下旬から9月までヨトウムシ類の発生が多く、また8月下旬からはカメムシ類の発生も多かった。
- ・9月21日の台風15号により主茎長が伸びているほ場で少～中程度の倒伏が見られた。葉焼病の発生がやや多かった。
- ・9月下旬の気温低下により急速に黄化が進み、10月下旬に落葉期から成熟期を迎えた。収穫期は気温が高く茎の乾燥が進まなかったため、刈取作業はやや遅れた。
- ・県南では7月の台風の影響により粒が平年より小さく収量が低かった。県中北では粒大・収量ともに昨年を上回ったが、平年に比べるとやや劣った。品質は平年並だった。

(2) 野菜

いちご

- ・平成23年産本ぼ(並~やや不良 生育期間:平成22年9月~平成23年5月)

花芽分化は、夜冷育苗では概ね平年並であったが、その他の作型は高温の影響で遅れた。一部炭疽病の発生により定植遅れのほ場も散見されたが、10月上旬までに定植が終了した。定植後の生育は日照不足の影響により一次やや軟弱となった。また、頂花房の花数はやや少ない傾向であった。1次腋花房の開花はバラツキがあり、平年より遅れ気味であった。作柄は平年に比べ並~やや不良であった。

病害虫発生は、平年に比べ、うどんこ病はやや少なく、ハダニ類は多く、灰色かび病は平年並であった。

- ・平成23年産親株~苗(平成23年5月~9月)

採苗仮植はやや遅れ、高温により活着・生育が遅れ苗は充実不足気味であった。8月から9月にかけて県内全域で炭疽病が多発した。

トマト

- ・冬春トマト(やや不良 生育期間:平成22年10月~23年6月)

越冬長期どり作型は、初期生育は高温と遮光処理の影響で草勢低下と生育遅れがみられた。低段花房で収穫がやや遅れ、空洞果、着果不良等が発生し、小玉傾向であった。年内の収穫量はやや少なめであった。促成冬春どりは、定植後の生育も順調に経過した。年明け後は、低温等による着色遅れ、収穫遅れがみられた。3月の震災による影響で、凍害や低温障害が一部でみられ、その後の出荷量は平年を下回った。

病害虫は、初期から灰色かび病、黄化葉巻病がやや多い傾向であったが、灰色かび病は、12月以降の天候不順の影響により、各地で灰色かび病が多発した。

- ・夏秋トマト(並 生育期間:平成23年5月~23年9月)

高温乾燥で一部生育遅延が見られたが、作柄は平年並であった。病害虫の発生は全般に少ない傾向であった。

なす

- ・夏秋なす(並 生育期間:平成23年6月~9月)

7月の高温、乾燥により生育が遅れ、一部でヘタ枯れ症状が発生した。9月も気温の急変、日照不足、台風等により、全体的に収穫・出荷量は少なめとなった。病害虫は、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が多かった。

きゅうり

- ・夏秋きゅうり(並 生育期間:平成23年6月~9月)

高温乾燥の影響により一部に生育の遅れが見られたが、作柄は概ね平年並であった。

にら

・冬どり（並～やや不良 生育期間：平成22年9月～平成23年5月）

養成株は、高温乾燥の影響から全体に生育が遅れ、株の充実不足がみられた。10月以降は、生育も回復したが、分けつ数は平年より1～2割程度少ない傾向であった。12月上旬には2年株の収穫と一部で1年株の保温が開始された。株の充実不足から出荷量は少なめであった。一部で12月、3月に白斑葉枯病の発生が多くなった。ネダニは、株養成期から収穫期を通して平年に比べ、多発傾向であった。

ねぎ（並 生育期間：平成23年2月～11月）

夏期から秋期の高温により生育は一週間程度遅れたが、その後は平年並の生育となった。葉鞘の太さは並だが、上位等級率がやや低かった。アザミウマ類の発生が生育期間を通して多かったが、その他病害虫は平年に比べ少ないから平年並の発生であった。

たまねぎ（やや不良 生育期間：平成22年9月～平成23年6月）

4月から5月にかけての低温と日照不足で生育遅れがみられ、5月以降べと病の発生が急増した。玉の肥大は小玉傾向で、作柄はやや不良であった。3月から4月にかけて黒点葉枯病の発生が目立ったが、5月以降は少ない発生となった。アブラムシ類、アザミウマ類は4月以降発生が多かった。

レタス

・秋冬どりレタス（やや不良 生育期間：平成23年8月～11月）

8月の高温乾燥により播種・定植作業が遅れ、9月の台風の影響により生育停滞や生育不良のほ場が各地で出た。収穫時期は全般に遅れ、玉は小玉傾向で、作柄はやや不良であった。

(3) 果樹

なし(並)

催芽期は幸水、豊水とも平年より7日遅く、開花期は幸水で6日、豊水で5日遅かった。収穫期は幸水で8日、豊水で9日遅く、果重は大きく、糖度は平年並みだった。豊水のみつ症は、軽微な障害果の発生はみられたが、重症果の発生はなかった。

生育前半は、黒星病、赤星病の発生が散見された。生育中期以降は、ハマキムシ類、ハダニ類の発生はみられた。収穫後カイガラムシの発生がみられた。

ぶどう(並)

巨峰の催芽期は平年並みで、開花盛は平年より3日遅かった。収穫盛は平年より9日早かった。果実は、単為結果が多く、房重は平年より小さかった。糖度は、平年並みだった。生育前半は黒とうが散見された。生育後半は、べと病、褐斑病の発生が目立った。

りんご(並)

ふじの催芽期は平年より7日遅く、開花盛は2日遅かった。収穫盛は平年より4日遅かった。果実品質は、肥大良好で、糖度は高かったが着色はやや不良だった。斑点落葉病の発生が生育中期以降多かった。8月には一部ほ場でハダニ類の発生が目立った。

樹種名	品種名	催芽期		開花盛		収穫盛		果実重 g	糖度 Brix%
		月日	平年差	月日	平年差	月日	平年差		
なし	幸水	4/10	7	4/28	6	9/7	8	380	12.0
	豊水	4/6	7	4/24	5	9/29	9	514	13.1
ぶどう	巨峰	4/17	1	6/12	3	9/13	-9	253	17.8
りんご	ふじ	4/9	7	5/1	2	11/18	4	360	14.2

注：催芽期、開花期、収穫期の平年差の-は、早くなったことを示す。

なしは過去10年間の移動平均。ぶどう、りんごは1970～2000年の30年平均。

(農業試験場果樹研究室より)

(4) 花き

きく(並)

3月の震災に伴う停電の影響で、一部の地域で凍害や低温障害が発生し、出荷量は一時的に平年を下回った。6月以降は徐々に夏秋系に切り替わり、生育、出荷量とも平年並に回復した。夏季高温の影響による奇形花の発生は少なかった。年間を通して、生育は概ね平年並であった。病害虫については、白さび病の発生は全体的に少なく、ハダニ類の発生は年間を通して多く、アザミウマ類、アブラムシ類の発生も目立った。